

「誰が何といおうとも、イエス様の御言葉！」(2024.2.18)

「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」(ヨハネ 8:31-32)

イエス様から「あなたは本当に私の弟子です」と認められる人ってどんな人でしょうか。イエス様のみ言葉にとどまる人です。私たちの周りにはイエス様の御言葉に疑問を抱かせ、否定する言葉が沢山あります。しかし、イエス様の弟子は、それらを退け、み言葉を守り、そこに立ち続けるのです。誰が何と言おうともイエス様の御言葉にとどまる！これが本当にイエス様の弟子です。そして、恵みが約束されています。真理を知るのです。嘘・偽りから解放され、罪から自由にされるのです。

ある女性のことを語りましょう。ルカ 7:36~50 に出て来る罪深い女性です。彼女は以前イエス様から罪を赦されていました。ある時、シモンというファリサイ派の人の家でイエス様に心からの感謝を表したのです。イエス様の足を涙でぬらし、髪の毛でふき、足にキスし、香油を塗ったのです。でも周囲の人々は依然として彼女を罪深い女と見做していました。ですから、彼女の心はイエス様の赦しと周囲の視線の間を揺れ動いていました。そのとき、イエス様は言われます。「あなたの罪は赦された。安心して行きなさい」。これは、あなたの罪は赦されている。周りの人がどう見ようが、罪の赦しを信じて、安心して行きなさい。だれがどう言おうが、み言葉を握り締め、シャロームの中を生きよ、ということ。これが、イエス様のみ言葉にとどまることであり、その恵みです。

私にとどまって恵まれているみ言葉を紹介します。「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。」ヨハネ 6:56 です。聖餐においてイエス様が臨在されるというみ言葉です。実は当時、弟子たちの多くが「実にひどい話だ。だれが、こんな話を聞いていられようか。」と言って離れ去ったのです。でも、このみ言葉にとどまる時、聖餐は私の内にイエス様が臨在されるという恵みの印になりました。深い孤独に陥った時、再び胸を張って立ち上がらせる印です。



誰が何といおうとも、イエス様の御言葉にとどまる、本当の弟子になりましょう。